研究員の眼

国内株式の積立投資も増えている？
～2022 年5月の投信動向～

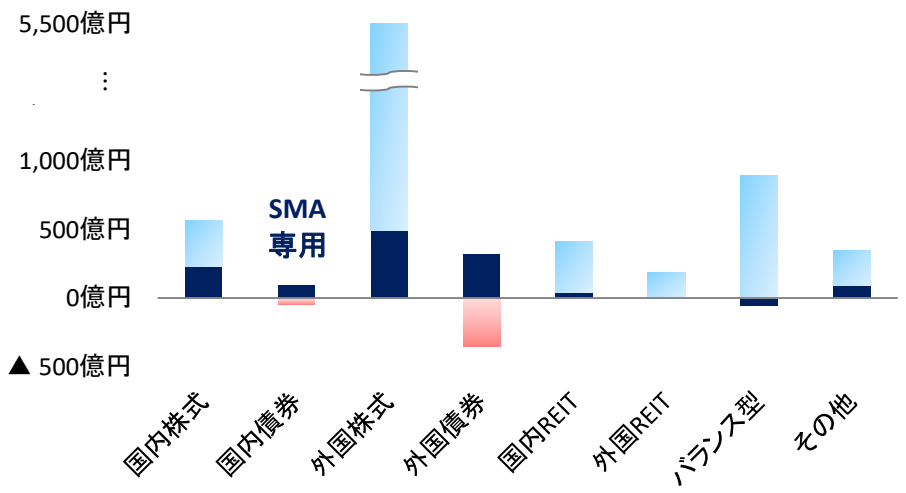
金融研究部 准主任研究員　前山　裕亮
(03)3512-1785　ymaeyama@nli-research.co.jp

外国株式ファンドへの資金流入倍増

2022 年５月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く。以降、ファンドと表記）の推計資金流出入をみると、主として外国株式を投資対象とするファンドを中心に多くの資産クラスのファンドに資金流入があった【図表１】。ファンド全体では 7,900 億円の資金流入となり、４月の 3,600 億円から約 4,200 億円も増加した。SMA専用ファンド（紺棒）に限ってみると、４月はほぼ資金の出入りがなかったのに対して５月は 1,200 億円の資金流入があり、ラップ口座等の販売が５月に復調したこともファンド全体への流入増加に寄与した。

ただ、５月は外国株式ファンドへの資金流入が 5,500 億円と４月の 2,700 億円から倍増したことが大きかった。SMA専用ファンドに 500 億円の資金流入があり４月の 400 億円の資金流出から流入超過に転じたこともあるが、SMA専用ファンド以外でもインデックス型、アクティブ型などのタイプによらず資金流入が増加した。

【図表1】2022 年5月の日本籍追加型株式投信（除くETF）の推計資金流出入



（資料）Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

 Copyright ©2022 NLI Research Institute All rights reserved

外国株式インデックス型ファンドに過去最大級の資金流入

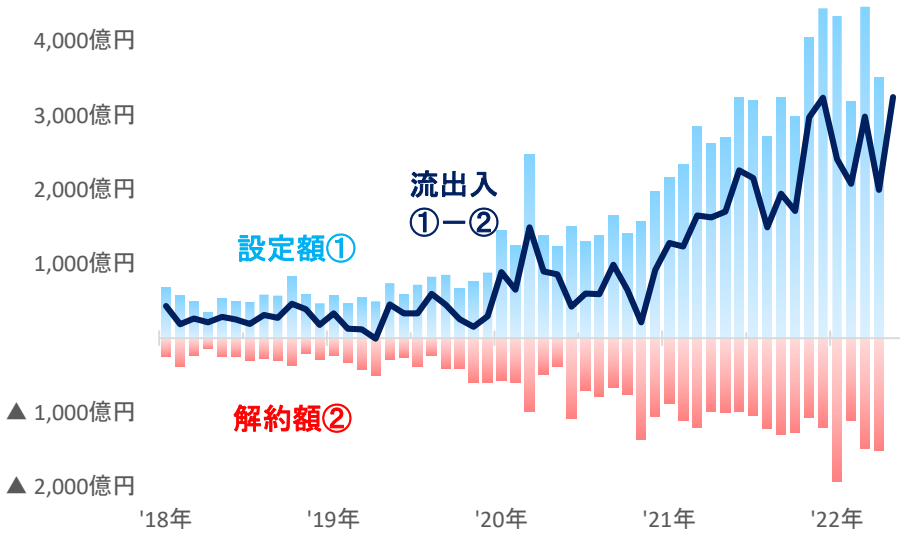
外国株式ファンドでは、SMA専用のものを除外するとインデックス型への資金流入（線グラフ）が５月に3,200億円と４月の2,000億円から増加した【図表２】。インデックス型の流入額は、過去最大であった2021年12月に迫る規模であった。

このように外国株式のインデックス型ファンドの販売が好調であるのは、まず積立投資等で毎月定期購入する投資家が増えていることがあげられる。実際に外国株式のインデックス型の毎月の設定額（青棒）をみると、2020年頃から右肩上がりで増加し、2022年に入ってからは今のところ3,000億円を毎月上回り続けている【図表２】。

それに加えて５月は市場環境の影響もあった。外国株式が５月に一時、大きく下落する展開となり、下落時にタイミング投資に伴う資金流入がインデックス型にあったと考えられる。個別ファンドごとにみても、５月に資金流入が大きかった外国株式のインデックス型４本（青太字）とも４月から資金流入が増加していた【図表３】。

ただし、外国株式のインデックス型について気がかりな点もある。それは毎月の解約額（赤棒）も緩やかではあるが増加傾向にあり、2022年１月には解約額が2,000億円に迫るまで膨らんでいた点である。解約額は足元8.5兆円もある純資産総額と比べると少額であるが、今後の動向が注目される。

【図表2】外国株式インデックス・ファンドの設定額、解約額、資金流出入の推移



（資料）Morningstar Direct より作成。SMA 専用ファンドは除く。2022 年 5 月は資金流出入のみで推計値。

【図表3】2022年5月の推計純流入ランキング

	ファンド名	運用会社	4月の推計流出入	5月の推計純流入	純資産 5月末時点
1位	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	三菱UFJ国際投信	456 億円	706 億円	12,209 億円
2位	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信D毎月(ヘッジなし)予想分配金提示	アライアンス・バーンスタイン	628 億円	395 億円	17,405 億円
3位	eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	三菱UFJ国際投信	271 億円	366 億円	5,358 億円
4位	SBI・V・S&P500インデックス・ファンド	SBIアセットマネジメント	180 億円	307 億円	5,702 億円
5位	楽天・全米株式インデックス・ファンド	楽天投信投資顧問	206 億円	290 億円	5,725 億円
6位	ダイワJ-REITオープン(毎月分配型)	大和アセットマネジメント	126 億円	189 億円	4,095 億円
7位	ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(毎月分配型)	ピクテ投信投資顧問	3 億円	188 億円	10,415 億円
8位	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Bコース(為替ヘッジなし)	アライアンス・バーンスタイン	237 億円	184 億円	6,131 億円
9位	キャピタル・インベストメント・カンパニー・オブ・アメリカ ICA	キャピタル・インターナショナル	228 億円	175 億円	1,221 億円
10位	ファンドスミス・グローバル・エクイティ・ファンド	アセットマネジメントOne	176 億円	154 億円	2,556 億円

（資料）Morningstar Direct より作成。ETF、SMA・DC 専用ファンドは除く。

Copyright ©2022 NLI Research Institute All rights reserved

なお、外国株式のアクティブ型ファンドでも、５月は 1,800 億円の資金流入と４月の 1,000 億円から増加したが、資金流入が大きかったアクティブ型５本のうち４本（赤太字）は４月から鈍化した【図表２】。増加したのは「ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド（毎月分配型）」（緑太字）のみだった。このことから実はアクティブ型の販売は４月よりも厳しかったが、それ以上に一部ファンドで基準価額の下落を受けて解約が４月よりも出なかったため、結果的にアクティブ型の資金流入が増加したものと推察される。

普通の毎月分配型が見直されつつある？

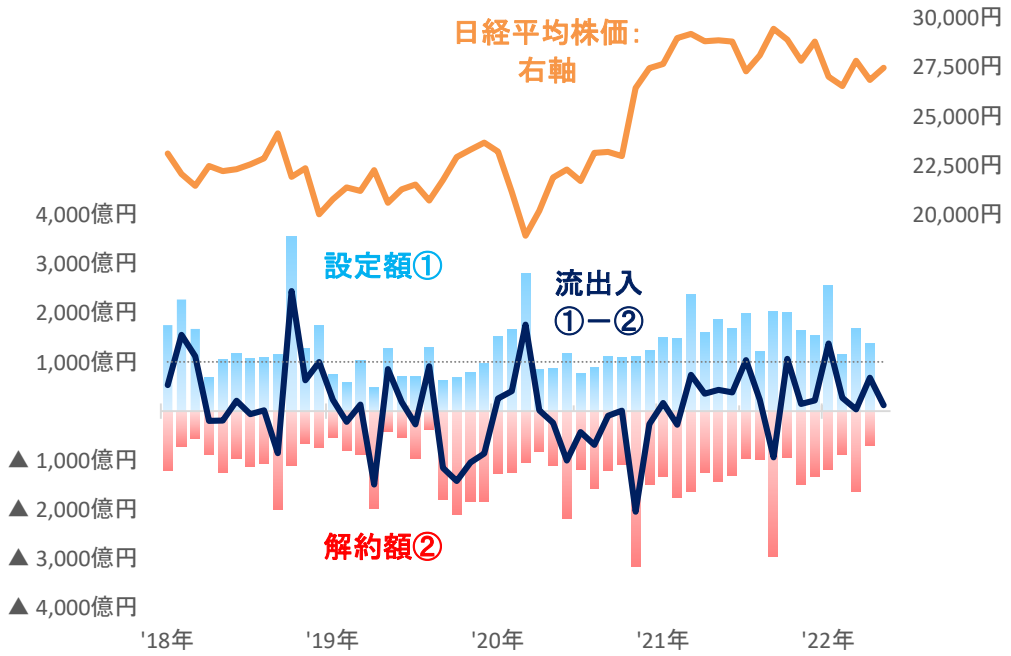
また、５月はバランス型ファンドに 800 億円、国内REITファンドに 400 億円の資金流入と４月の 300 億円、200 億円から増加した。それに加えて、外国REITファンドにも５月に 200 億円の資金流入と４月の 500 億円の資金流出から一転して流入超過となった。

足元、予想分配金提示型の人気に陰りが見える一方で「ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド（毎月分配型）」に代表される好配当株や内外REITといった、いわゆる普通の毎月分配型が見直されてきているのかもしれない。好配当株やREITは比較的インフレに強い資産と考えられていることも追い風になっていそうである。

国内株式インデックス型ファンドも設定額が緩やかに増加基調

その一方で国内株式ファンドは、５月に600億円の資金流入と４月の800億円の流入から鈍化した。５月はSMA専用のものを除外すると、インデックス型（線グラフ）への資金流入が 100 億円と４月の 700 億円から急減した【図表４】。５月の国内株式のインデックス型ファンドの資金動向を日次でみると、日経平均株価が２万 6,000 円を下回った翌営業日の 13 日までは資金流入基調であったが、その後、株価が反発するとともに資金流出基調に転じ、月を通してだと小幅な資金流入となった。

【図表4】国内株式インデックス･ファンドの設定額、解約額、資金流出入の推移



（資料）Morningstar Direct より作成。SMA 専用ファンドは除く。2022 年 5 月は資金流出入のみで推計値。

 | Copyright ©2022 NLI Research Institute All rights reserved

このように国内株式のインデックス型ファンドの資金動向は日々の株価変動に左右される傾向がある。過去を振り返ってみても株価が大きく上昇した月は解約（赤棒）が膨らみ、資金流出する月が多かったことからも、そのことが分かる。それもあって国内株式のインデックス型ファンドには安定した資金流入がなく、外国株式のように積立投資する人が増えているのか資金動向からは確認できない。

しかし、資金動向でなく解約額の影響をうけない設定額（青棒）に注目すと、国内株式のインデックス型でも積立投資する人が増えている可能性が示唆される。設定額は 1,000 億円（点線）を下回る月が以前あったが、2020 年 9 月以降は設定額が毎月 1,000 億円以上となっている。つまり、毎月の設定額が緩やかに増加基調にあるようにも見える。ただ、増えていたとしても外国株式と比べると増加は緩慢であり、依然としてタイミング投資している投資家が圧倒的に大多数であるといえるだろう。

一部のテーマ型の外国株式ファンドが好調

５月に高パフォーマンスであったファンドをみると、資源やEVといった一部のテーマ型の外国株式ファンドが好調であった【図表５】。また、資源高もあり資源国であるブラジル・レアルが大きく上昇したため、ブラジル・レアルの通貨選択型を組み込んだファンドも好調であった。

【図表5】2022 年5月の高パフォーマンス・ランキング

	ファンド名	運用会社	5月の収益率	過去1年収益率	純資産 5月末時点
1位	テーマレバレッジ EV2倍	大和アセットマネジメント	22.3 %	−2.8 %	13 億円
2位	テトラ・ネクスト	三井住友DSアセットマネジメント	14.3 %	−6.0 %	384 億円
3位	資源ファンド(株式と通貨)ブラジルレアル・コース	日興アセットマネジメント	13.2 %	67.9 %	113 億円
4位	資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルレアル・コース>(毎月分配型)	日興アセットマネジメント	13.1 %	67.9 %	136 億円
5位	シェール関連株オープン	岡三アセットマネジメント	12.0 %	84.5 %	37 億円
6位	チャイナ脱炭素イノベーション株式ファンド	日興アセットマネジメント	11.8 %	---	15 億円
7位	日本株厳選ファンド・ブラジルレアルコース	三井住友DSアセットマネジメント	9.9 %	49.6 %	125 億円
8位	テトラ・エクイティ	三井住友DSアセットマネジメント	9.9 %	−33.3 %	535 億円
9位	iFreeActive EV	大和アセットマネジメント	9.4 %	17.3 %	69 億円
10位	野村世界業種別投資シリーズ(世界資源株投資)	野村アセットマネジメント	9.3 %	40.4 %	56 億円

（資料）Morningstar Direct より作成。2022 年5月末残高が 10 億円以上の ETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

（ご注意）当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したものですが、その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。